

客員教授紹介

土壌保全とコメの収量向上はマダガスカルの緊急の課題

マダガスカル農業省事務次官補佐 **ハリザオ・アンドリアナナ**
(任期：2003年7月～9月)

2002年11月から12月に、松本教授が「放牧地域の火入れ防止による森林保護と農業生産向上の調査研究」でマダガスカル農業省を訪問されました。マダガスカルでは乾期に放牧地に無秩序な火入れを行うので、森林原野火災が多発し、保水能力を失った原野は大量の土砂を流失し、田畑は埋まり、収量低下が起きている。火入れは政府によって禁止されていますが、農民は牛の餌としての草の生育がよくなると信じているので、人目を忍んで火をつけ、その結果、大きな火災を引き起こしています。そのため毎年2%の森林が消失しています。

私は、農業省入省後主に農業普及の専門家として、農村における農民参加型開発の方法の研修や集約農業、市場指向型野菜栽培、土壌の有機的管理など農民への技術研修に従事してきました。また、農村開発計画立案を行い、技術普及や普及員の能力向上にも取り組んできました。さらに、マダガスカル農

業普及国家戦略プログラムでは技術フォローアップの責任者として、生産性向上を指揮し、農民への技術普及を行ってきました。そこで、松本教授と共同で、「土壌保全とコメ増収技術の農家への普及に関する研究」を行い、事務次官補佐としてマダガスカルの農業発展のための政策立案に役立てたいと考え、ICCAEに2003年7月1日から3ヶ月客員研究員として滞在しました。附属農場ではたくさんのイネの品種を見せて頂き、とても感動しました。日本の稲作技術と共に農協組織に興味があり、マダガスカルへの導入を考えています。皆さんがマダガスカルを訪問する際には、森林が回復し、コメが今よりたくさんとれるようにしたいと思っています。



略歴 1957年生まれ。1982年アンタナリボ大学農学部卒業。1985年アンタナリボ大学大学院農学研究科修士課程修了。1986年農業省入省、ツレアル州ムルンダヴァ農業事務所地区担当員、地区担当長を経て1989年農業普及局研究開発担当員、研究開発課長、栽培促進・研究普及課長、農業研究支援課長を歴任。1998年農業普及国家プログラム技術フォローアップ担当責任者、2000年農業省農業局監督評価室長、2002年農業省事務次官補佐として現在に至る。

e-Learningを使った農学高等教育開発に向けて

フィリピン大学ロスバニョス校農学部教授 **リタ・ラウデ**
(任期：2003年11月～2004年3月)

客員教授としての研究課題は、AAACUネットワークのためのe-Learningを使った農学教育カリキュラムを開発し、大学院用の講義内容を作成することです。e-LearningのツールとしてはWebCTが使われますが、まずは、農学関連の分野にすでに存在する有効な学術プログラムを調査することから始めています。この調査では、単位制、評価の高い授業や英語で講義をしたいという教員の要望などについても調べています。

ICCAE、大学院生命農学研究科、またAAACU事務局の担当者らが協力して、この事業に取り組んでいます。e-Learningを活用した新たな教育システムが、アジア諸国の農業系大学のネットワーク構築に貢献し、農学教育をさらに豊かなものとしていくであろうと確信しています。



略歴 1950年フィリピン生れ。フィリピン大学ロスバニョス校(UPLB)農学部卒業(1970)、同大学大学院にて修士号(1976)と博士号(1984)をそれぞれ取得。1970年より同大学助手、現在は遺伝学の教授。研究機関連携室長、UPLB大学院研究科長を経て、1998年より2003年まで、SEAMEO-SEARCA大学コンソーシアム委員会主席委員。

アジア農科系大学連合・大学院生命農学研究科・農学国際教育協力研究センター

アジア農科系大学連合第15回大会

テーマ 「アジア農科系大学連合における
遠隔教育のためのe-Learningシステムの開発」

日時 2004年9月27日(月)～30日(木)

場所 名古屋大学シンポジオンホール

主催

名古屋大学大学院生命農学研究科
名古屋大学農学国際教育協力研究センター

名古屋大学生物機能開発利用研究センター
アジア農科系大学連合